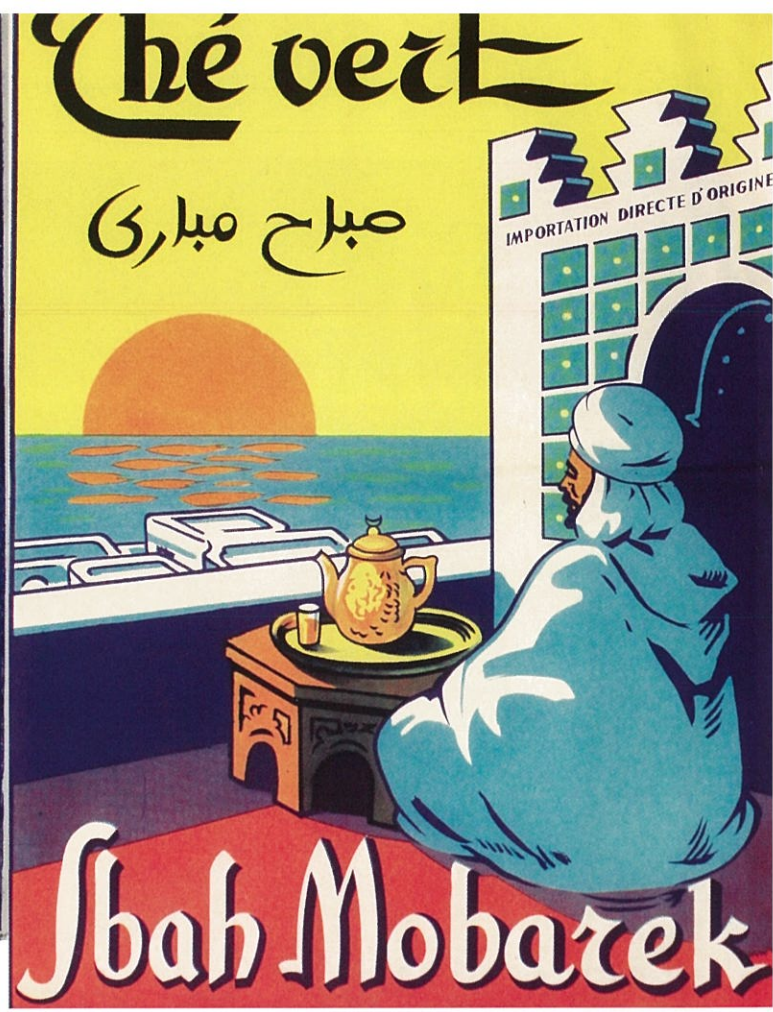




60年ぶりに現れた最後の輸出茶ラベル



蘭字と印刷

2015. 9. 12(土) ~ 11. 1(日)

■開館：9:30~16:30 (9月12日(土)は10時30分から開館)

■入館料：一般・大学生 400円 / 中・高生 300円 / 小学生 200円
 (20名以上の団体 20%引き、小・中学生は土曜日無料)
 10月1日(木) ~ 11月1日(日)は入館料半額
 (常設展のリニューアルのため企画展のみ開館)

■休館日：月曜日 (9月21日・10月12日は開館)

■臨時休館：11月2日(月) ~ 11月6日(金)

フェルケール博物館
 (一般財団法人 清水港湾博物館)

〒424-0943 静岡県静岡市清水区港町 2-8-11 TEL 054-352-8060
<http://www.suzuyo.co.jp/suzuyo/verkehr/>



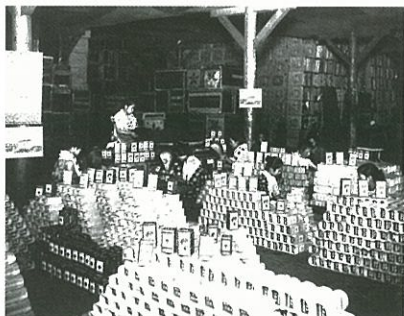
静岡で作られた錦絵

「蓬萊樓御殿女中顔見世之図」 静岡県立中央図書館蔵



二代広重による茶箱絵

藤枝市郷土博物館・文学館蔵



お茶のカートン詰作業



輸出用茶箱

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所寄託



蘭字 「Kago Chop」 明治中ごろ



戦後の中東向け印刷蘭字

株式会社エム・シー・フーズ寄贈



戦後の輸出用茶箱

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所寄託

日本の蘭字

静岡のお茶輸出：江戸時代 から駿河のお茶は全国に知られており、江戸時代終わり頃には北アメリカに向けて輸出されていました。当時はお茶を船で横浜まで送り横浜港から輸出していましたが、明治39年(1906)から清水港から輸出されるようになりました。

木版印刷の技術：江戸時代後半から駿府でも浮世絵が作られており、明治時代まで木版印刷の技術が伝わっていました。

静岡の蘭字作り：清水港からお茶の輸出が始まると、横浜から静岡市北番町周辺に外国人商館が移ってきました。それに伴い、静岡の浮世絵職人と横浜から移った職人により静岡での蘭字制作が始まりました。

輸出茶の変化：開国以来、生糸に次ぐ重要輸出品だった日本茶は第二次世界大戦を境にして北アメリカ市場を失いました。第二次世界大戦後、食糧難だった日本への援助物資の見返りに、連合国は日本茶の輸出を求めました。そのため、戦後は植民地が多くあった中東やアフリカへ輸出されていきました。そのため、蘭字デザインも中東やアフリカ向けに変わっていきました。

60年目の里帰り：この度、“蘭字”と呼ばれていた最後の印刷輸出茶ラベルが発見されました。今回の展示では、最初期の茶箱絵から戦後の印刷ラベルまで、蘭字の変遷を紹介してまいります。

イベント・講座

○ ギャラリートーク

9月12日(土) 10:30 ~ 11:00

静岡茶共同研究会

○ 講演会「蘭字とデザイン」(定員50名)

9月12日(土) 11:00 ~ 12:00 要申込み・無料
講師：井手暢子氏(元常葉大学教授)

○ シンポジウム「蘭字とデザイン」(定員50名)

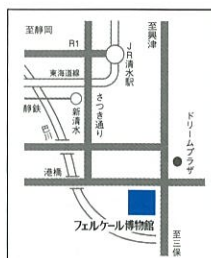
9月26日(土) 13:30 ~ 15:30 要申込み・無料
コーディネーター

小二田誠二氏(静岡大学人文社会科学部教授)
パネリスト

稲垣進一氏(国際浮世絵学会常任理事)

小見山寛司氏(元日本レーベル印刷株式会社)

井手暢子氏



■主催：一般財団法人清水港湾博物館(フェルケール博物館)

■後援：静岡県教育委員会/静岡市教育委員会/朝日新聞静岡総局/NHK静岡放送局/
毎日新聞静岡支局/読売新聞静岡支局/産経新聞静岡支局/
静岡新聞社・静岡放送/中日新聞東海本社

■協力：株式会社エム・シー・フーズ/静岡茶共同研究会

■協賛： 鈴与グループ

企画展

入館割引券

有効期間
9月12日(土) ~ 30日(水)

見本

本券を切り取り、お持ちください。
2名様まで10%割引までご入館できます。